

自社ブランド不動産開発

S M F L、環境性能で差別化

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は、自社ブランドの不動産開発に乗り出す。建設や購入した建物で環境認証を取得し、初の不動産ブランド「NEWNO(ニューノ)」として貸し出す。物件はオフィスビルやホテル、倉庫など幅広く想定。環境に配慮した不動産への関心が高まる中、この受け皿にする。まずは2年間で500億円規模を投じる。完全子会社のSMFLみらいパートナーズ(東京都千代田区)が手がける。



今回の賃貸事業をテ
Lみらいパートナーズ
を現在の1兆500億
円から、早期に約1・
5倍の1兆5000億
円規模に引き上げる。
新ブランドを付ける
新ブランドを付けるの
は環境認証を取得した
建物に限定する(JR
新宿駅東口前の新ブラ
ンドビル)

のは環境認証を取得し
た建物に限定する。環
境認証は建築環境総合
性能評価システム「C
ASBEE」や日本政

策投資銀行の「DBJ
グリーンビルディング
認証」などで、いずれ
も最上位、上位ランク
の評価を目指す。
すでに約10物件を計
画しており、4物件を
具体化させた。4物件
は、東京・新宿に開業
させた既存オフィスビ
ルを皮切りに、名古屋
駅大閘通口近くの新築
商業ビル、東京・自由
が丘の新築商業ビル、

金沢・片町の新築ホテ
ルを開発する。
SMFLは祖業のリ
ースに加え、不動産や
エネルギー事業を強化
している。不動産事業
は主にSMFLみらい
パートナーズが担う。
みらいパートナーズは
不動産資産を年間約2
500億円取得し、同
約1500億円売却す
るペースで事業を拡大
していく。